

第3節

「次代を育む文化・教育環境の創造」

すべての市民が生涯にわたって主体的に文化、芸術、スポーツなどを学習できるよう環境を整備し、国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、郷土に誇りと愛着がもてるまちづくりを進めます。

また、次代の担い手である子どもたちが、個性と創造性を備えた自立した人間として成長できるよう、家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていきます。

～松戸市基本構想 施策の大綱～

政 策 8

～子どもたちが自らの将来の目標を持ち、
その実現に必要な知識や経験を得られるようにします～

後期基本計画における「めざそう値」等一覧

【めざしたい将来像】

子どもたちの社会での自立のために、家庭、学校、地域の連携のもと、地域の人々の力を活かし、地域を体験の場とするなどして、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す教育を実現します。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
目標をもって学校生活をしている児童生徒の割合	—	65.0%	65.0%	—	74.2%	75%
	60.4%	69.9%	74.5%	76.1%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

平成13～21年度(5回実施)の平均値から、微増になるとし、75%をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
授業が楽しいと感じている児童生徒の割合	—	—	—	—	61.4%	65%
	—	54.7%	63.5%	63.8%		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

平成13～21年度(5回実施)の平均値から、微増になるとし、65%をめざす。

上段:めざそう値(目標) 下段:実績

	13年度	前期基本計画		現状値	後期基本計画	
		19年度	22年度	24年度	25年度	32年度
学校での「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数	—	—	—	—	1,930回	2,000回
	—	—	1,887回(H21)	1,935回(H23)		

【めざそう値(32年度)設定の考え方】

限られた授業時間数の中で学習指導内容が増える一方で、「心の豊かさ」を育む体験活動が縮小されていくと予測されるが、平成21年度の現状値から、毎年10回ずつ増やし、2,000回をめざす。

政策8

子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにします

1.基礎基本を習得します

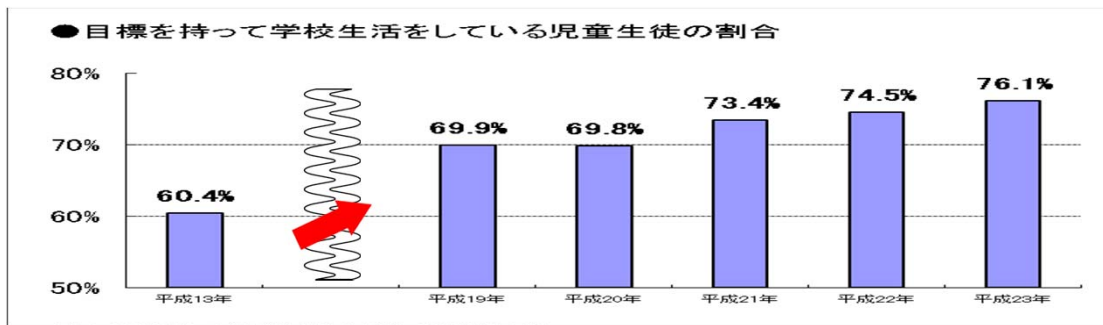
1. 現況と課題

学校教育は生涯学習の基礎となることから、とりわけ小中学校で「4Rsを身につけさせる」と共に、「生涯にわたっての生き甲斐ある生活を構築しようとする積極的な姿勢、実現するための力を身につけさせる」ことが重要です。「児童生徒の学校生活に関する調査」から、「目標を持って学校生活をしている児童生徒の割合」は平成13年度60.4%が、平成23年度76.1%に上昇しています。今後も児童生徒が基礎基本となる学力を身につけ、それぞれの個性を發揮し、能力を伸ばし、楽しい学校生活を送ることができるよう、教職員による授業内容の充実や教職員の資質及び能力の向上が求められています。

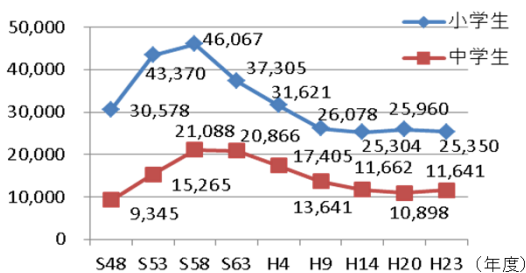
また、学校教育法の改正により、義務教育の到達目標が明示され、小中学校は、教育活動その他学校運営状況等について、その評価を工夫するとともに、その結果を公表することになりました。さらに、「特別支援教育」の推進も求められています。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 我が国の児童生徒の学力向上が求められています（ニーズの増）
- ② 保護者や地域住民から学校の情報提供が求められています（ニーズの増）
- ③ 学校選択制度を受け入れる保護者が増加しています（ニーズの増）



(人) ●松戸市立小中学校の児童生徒数



●国際的に見た我が国の成績

	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー	問題解決能力	デジタル読解力
2000年 平成12年	32か国中 8位	32か国中 1位	32か国中 2位		
2003年 平成15年	41か国中 14位	41か国中 6位	41か国中 2位	41か国中 4位	
2006年 平成18年	57か国中 15位	57か国中 10位	57か国中 5位		
2009年 平成21年	65か国中 8位	65か国中 9位	65か国中 5位		19か国中 4位

●平成21年度全国学力・学習状況調査結果

出典「OECD 生徒の学習到達度調査」

- ・本市は平均正答率等、国とおおむね同程度である。
- ・小学校では算数の基本が身に付いている子どもは応用力も身に付いていると言える。
- ・中学校では国語・数学の相関関係が強い。国語の正答率の高い生徒は数学の正答率も高い。
- ・小中学校ともに、選択肢を選ぶ問題の解答率は高く、記述の問題は解答率が低くなる。
- ・学年が進むにつれて、無解答率が高くなる。

出典 松戸市教育委員会ホームページ「平成21年度全国学力・学習状況調査」結果

※用語解説 4Rs = 読みreading・書きwriting・計算arithmetic・責任responsibility

2. 施策の展開方向

児童生徒の基礎基本の定着と特色ある学校づくりのために、スタッフ派遣を行い、学校の創意ある経営プランと自律的運営を支援していきます。

基礎基本の習得ができるよう全教科のバランスのとれた効果的な学習プログラムにより進めます。特に、英語学習については、小学校高学年から中学校3年間を見据え、中学進学時の学力格差が生じないような学習プログラムの研究開発を進めていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

必要な人員の安定した確保や小中学校の円滑な接続に必要な学習環境のより一層の整備を進める必要があります。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 学校づくりを支援する松戸市独自のスタッフ派遣制度があります（強み）
- ② 松戸市独自の英語ICT教材を活用しています（強み）
- ③ 学校評価を全校で行っています（強み）
- ④ 学校経営を評価して学校を選択できる制度があります（強み）
- ⑤ さまざまなニーズに対応する特別支援学級があります（強み）

●学校選択制度を受け入れている保護者の割合

平成16年度調査 (%)

	小学校	中学校	全体
よい	87.3	83.2	85.2
よくない	12.7	16.8	14.8

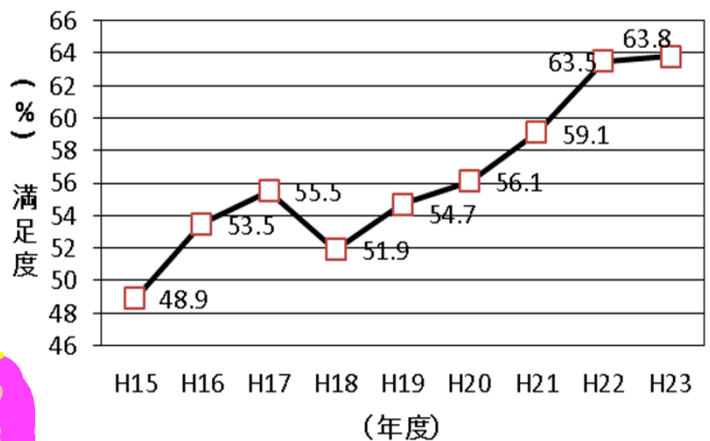
平成23年度調査 (%)

	小学校	中学校	全体
よい	91.2	90.8	91.0
よくない	8.8	9.2	9.0

(新入学児童生徒の保護者へのアンケート)

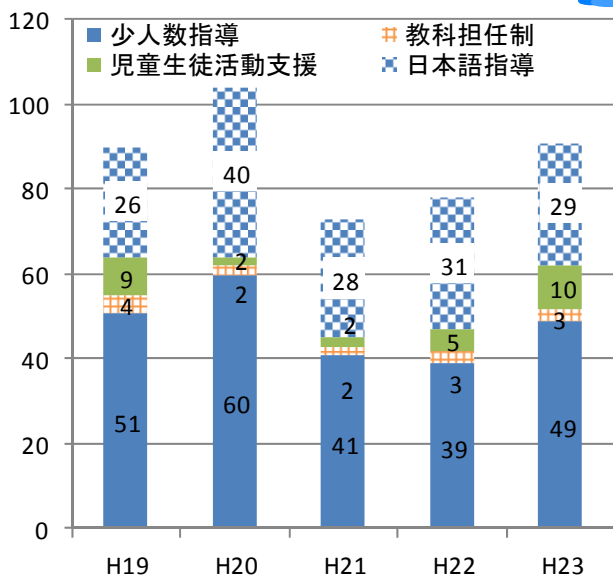


●授業が楽しいと感じている児童生徒



出典 学校教育担当部「児童生徒の学校生活に関する調査」

●スタッフ派遣状況



●近隣市の特別支援学級の状況

	知的障害	自閉症・情緒障害	言語障害	聴覚障害	視覚障害	病弱
松戸市	○	○	○	○	○	○
船橋市	○	○	○	○		
市川市	○	○	○	○		
柏市	○	○	○	○		

○ = 設置あり 平成24年5月1日現在

政策8

子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにします

2.一人ひとりの個性にあった教育が受けられます

1. 現状と課題

中学校卒業生数は、平成元年度以降、全県的に急激に減少してきましたが、松戸市を含む都市部では、平成18年度から増加に転じ、平成26年度頃から平成31年度頃まで高止まりが続きます。現在、中学校卒業生の98%が高校に進学し、高校生の学ぶ意欲や目的意識、興味・関心、進路希望等はますます多様化しており、様々な目的や学習ニーズを持った生徒が学んでいます。

今日の社会は、グローバル化、少子高齢化、高度情報化等が急速に進むとともに、非正規雇用者の増加など雇用状況の変化等が一層進んでいます。千葉県教育委員会では、平成23年度に「県立学校改革推進プラン」を策定し、「社会の変化に対応し、活力があり、生徒それぞれの豊かな学びを支え、地域のニーズにこたえる、魅力ある県立高等学校づくりを目指す」としています。

こうした中、市立松戸高校を中心に市内公立学校において、国際社会に対応できる資質・能力をもった人材や、地域の産業を支える高度で実践的な人材などの育成が求められています。新しい学習指導要領に基づいて、引き続き教育内容や指導方法の工夫改善を行うとともに、多様な児童生徒のニーズに応える、幅広い選択肢や柔軟なシステムなどを備えた教育環境を整える必要があります。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 子どもたちが自ら問題を発見し、解決できるような教育が望まれています(ニーズの増)
- ② 希望にあった進路が実現されることが望まれています。(ニーズの増)

●松戸市立松戸高等学校の概要

創立 昭和50年
 学科と学級数 普通科 各学年8学級(学年定員320名)
 国際人文科 各学年1学級(学年定員40名)
 所在地 〒270-2221 千葉県松戸市紙敷2丁目7番地の5
 047-385-3201(代表)



●千葉県内の市立高校

H24.5.1現在

市名	学校名	学科	学級数	生徒数(人)
千葉市	千葉高等学校	普通科	21	849
		理数科	3	119
		計	24	968
	稲毛高等学校	普通科	21	843
		国際教養科	3	120
計		24	963	
習志野市	習志野高等学校	普通科	18	733
		商業科	6	240
		計	24	973
船橋市	船橋高等学校	普通科	18	731
		商業科	6	241
		体育科	6	237
		計	30	1,209
松戸市	松戸高等学校	普通科	24	979
		国際人文科	3	119
		計	27	1,098
柏市	柏高等学校	普通科	26	839
		スポーツ科学科	3	118
		計	29	957
鎌子市	鎌子高等学校	普通科	22	889
		理数科	2	86
		計	24	975

出典 千葉県教育委員会資料

●松戸市内の高等学校

H24.5.1現在

区分	校名	所在地	生徒数(人)
市立	松戸高等学校	紙敷2-7-5	1,098
県立	松戸高等学校	中和倉590-1	767
県立	小金高等学校	新松戸北2-14-1	980
県立	松戸国際高等学校	五香西5-6-1	975
県立	松戸南高等学校	紙敷1199	149
県立	松戸六実高等学校	六高台5-150-1	1,046
県立	松戸向陽高等学校	秋山682	751
県立	松戸馬橋高等学校	旭町1-7-1	795
私立	専修大学松戸高等学校	上本郷3621	1,425
私立	聖徳大学附属高等学校	秋山600	526

出典 千葉県教育委員会資料 (平成23年度)

●松戸市立中学校卒業生の国公立高等学校等進学者

出典:「松戸の教育」資料

	人数(人)	構成比率(%)
市外県立高等学校	1,526	55.5
市内県立高等学校	812	29.6
松戸市立松戸高等学校	335	12.2
国・公立高等学校	18	0.7
特別支援学校	48	1.7
高等専門学校	7	0.3
計	2,746	100

2. 施策の展開方向

児童生徒の社会的自立に向けて、実態把握と課題分析を重視するとともに、効果的な指導や創意工夫を活かした学校の多様な取り組みを支援していきます。

特別なニーズを必要とする児童生徒に対しては、持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するために、一人ひとりの教育的ニーズに応じ、適切な指導・支援を行います。

市立高校は、生徒のニーズや保護者・地域の期待に応えるためにも、学力の充実と進学実績の向上をめざした改革を進め、スポーツ・文化芸術などの面で、松戸市の強みを活かした活躍ができる生徒を育成します。

3. 施策を推進していく上での課題

学校における学習指導や諸活動の成果を維持発展させるため、より一層の環境整備が必要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

・児童生徒が多様な場面で全国レベルでの活躍をしています(強み)

●市立松戸高校在校生の資格取得状況

単位：(人)

区分	英語検定		漢字検定	
	2級	準2級	2級	準2級
20年度	13	20	15	49
21年度	15	18	3	16
22年度	14	16	5	19
23年度	6	17	11	21

出典 市立高校資料

●市立高校卒業生の進路状況

区分	卒業生(人)	進学者				進学率(%)	就職者(人)	その他(人)	
		大学(人)	短大(人)	専門学校等(人)	計(人)				
23年度	男	174	118	3	34	155	89.1	15	4
	女	175	51	19	67	137	78.3	17	21
	計	349	169	22	101	292	83.7	32	25
22年度	男	182	111	0	43	154	84.6	12	16
	女	172	57	18	65	140	81.4	13	19
	計	354	168	18	108	294	83.1	25	35
21年度	男	174	102	5	43	150	86.2	9	15
	女	181	53	38	52	143	79.0	18	20
	計	355	155	43	95	293	82.5	27	35

出典 市立高校資料

●松戸市立松戸高等学校合唱部

平成24年度第79回全国学校音楽コンクール千葉県コンクール 金賞受賞



松戸市の小中学校、高等学校ではスポーツ・文化活動において優秀な成績を収めています。

●国際人文科の生徒 アメリカ海外研修



●平成23年度第65周年記念東葛飾地方中学校駅伝競争大会 優勝 第四中学校



●ロボカップ世界大会 ベストユージングセンサーズ受賞 小金中学校科学部



政策8

子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにします

3.安全な環境で安心した教育が受けられます

1. 現況と課題

高度情報化社会の中で生きる児童生徒にとって、情報活用能力の習得は必要不可欠なものとなっています。教員の教科指導におけるICT活用能力の向上を図るとともに、情報モラルを含めた体系的な情報教育を推進する必要があります。

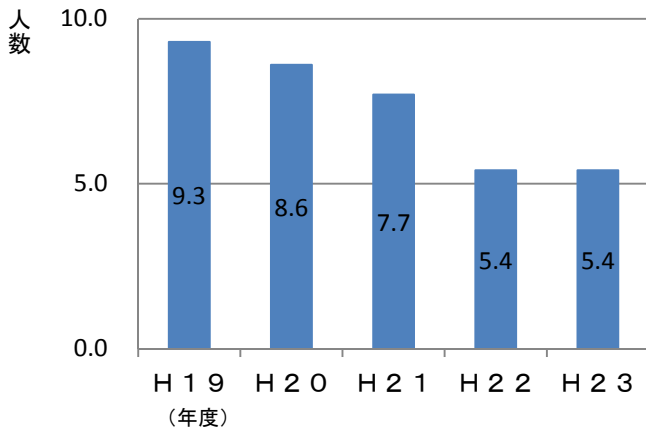
また、国は平成27年までに特定建築物の耐震化率を約100%にすることを目標としていますが、本市がこの目標を達成するためには、財源確保等、様々な課題が残ります。

一方、新聞等の報道にあるように子どもたちが被害にあう事件や事故が後を絶ちません。登下校や校内生活の安全、災害時の安全確保は最重要課題です。

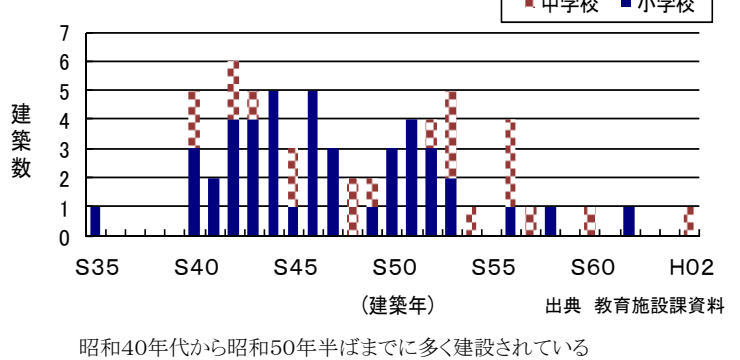
【特筆すべきニーズの変化】

- ① 高度情報化社会へ対応できるリテラシーが求められている。(ニーズの増)
- ② 公共施設の耐震化が求められている。(ニーズの増)
- ③ 交通事故や犯罪から子供達を守る、地域に根付いた活動の充実が求められている。(ニーズの増)

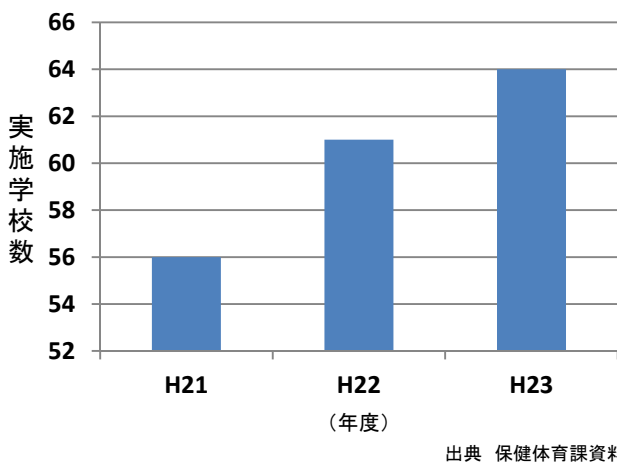
●PC一台当たりの児童生徒数の推移



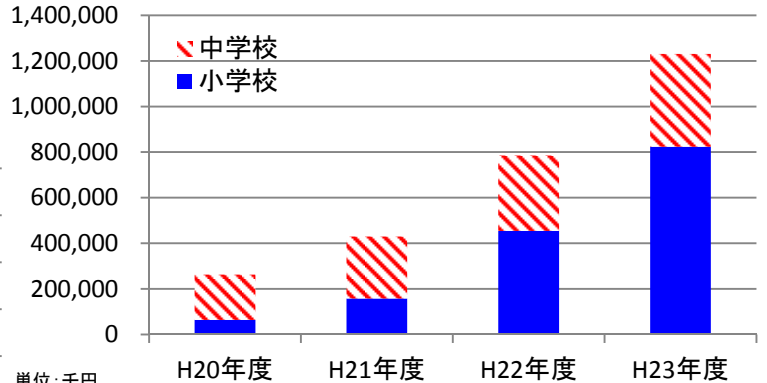
●年度別校舎建築数の推移



●地域住民などによる見守り活動の実施状況の推移



●校舎等の耐震工事に係る決算額の推移



	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
小学校	64,628	158,550	455,101	824,319
中学校	198,801	272,012	330,597	407,305
合計	263,429	430,562	785,698	1,231,624

出典 教育施設課資料

2. 施策の展開方向

小中学校校舎等の耐震改修工事を計画的に進めていきます。

保護者や地域の人たちが安心して子どもを託すことができるように、学校の危機管理能力を高めるとともに、合理的な安全管理の工夫と安全教育を推進します。

情報ネットワークやコンピュータ等の基盤整備の強みを生かし、ICTを効果的に活用した校務事務の合理化および教育の情報化を推進するとともに、学校図書館の学習情報センター機能の充実を図り、児童生徒の学びを支えます。

学校適正規模適正配置については、学校選択制の状況、国が示す1学級あたりの人数の基準、児童生徒人口の推移など総合的に判断して実行しなければならないところです。引き続き、児童生徒人口の動向を注視しつつ、必要な場合は適正な対応をしていきます。

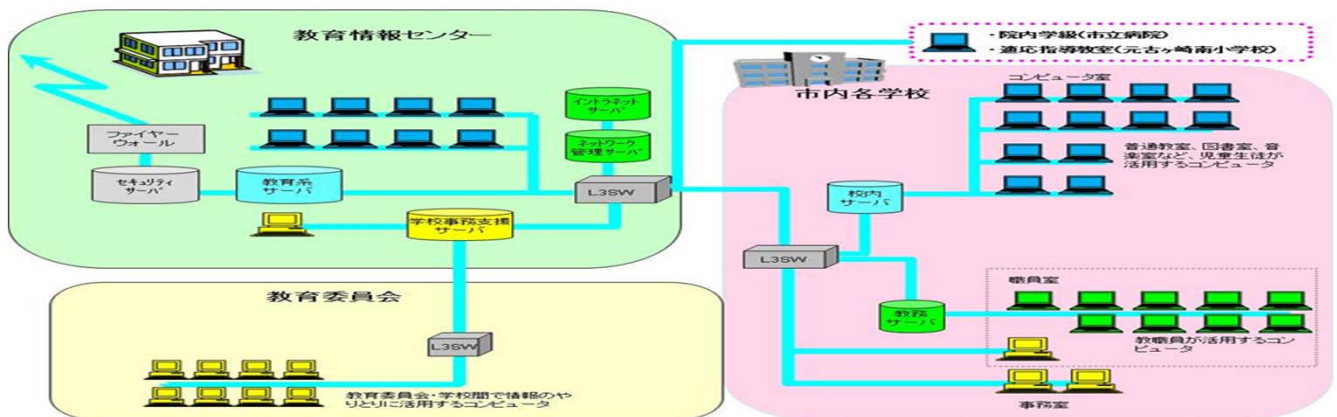
3. 施策を推進していく上での課題

耐震改修工事の早急かつ確実な工事完了のための諸条件の整備が必要です。また、保護者や地域住民の「見守り」に対する協力意識を維持継続させる学校の日常的な働きかけが必要です。情報教育設備の安定稼働に向けた機器等の維持管理に努めます。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 学校のICT環境が整備されています（強み）
- ② 地域で子どもたちを守るという意識が高くなっています（強み）
- ③ 学校施設の耐震率が高くありません（弱み）

●教育情報ネットワーク構成図



●PCを活用した授業の様子



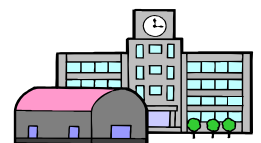
●小中学校教職員の情報教育研修の実施状況

研修名	対象者	年度内回数
情報ネットワーク活用研修会	情報教育担当者	6
情報教育リーダー研修会	情報教育リーダー	8
管理職情報教育講座	管理職員	3
情報教育講座	教員	4
わかる授業作りのためのICT活用研修会	教員	13

●耐震改修工事済の校舎



子どもたちの情報活用能力を育成するためには教職員のスキルアップは必要で、ただハードを整備して使用すればよいわけではありません。



出典 教育情報センター資料

※用語解説

IS値 = 耐震改修促進法に基づき定められた構造耐震指標